

【熊本県賞】

果実による深刻な水不足

熊本県 真和中学校 二年 北井 乃暖

私の大好物であるアボカドが「悪魔の果実」とかかかれているのをネットニュースでみつけてしまった。「森のバター」と呼ばれていることは知っていたが、なぜ「悪魔の果実」とも呼ばれてしまったのだろうか。

アボカドは、他の農作物よりも沢山の水が必要だ。一ト当たりバナナは七九〇立方メートル、オレンジは五六十立方メートルなど多くの農作物と比べて、アボカドは一八〇〇立方メートルの水が必要と、高い水準にある。メキシコではオリンピックで使用されるプール三八〇〇杯分の水がアボカド生産のために一日で使用されている。

このことから、問題の一つとなっている栽培地で引き起こす水不足について調べた。アボカド栽培には大量の水が必要になるため、消費が世界的に増えるなか生産地では水不足が深刻化し、健康被害も出ている。

例として、主な生産国の一つであるチリ中部では、アボカド栽培のための大量の水の消費で川が枯れ、生活も農業もままならない人達が苦境に立たされている。また、大規模農園や企業が水資源を買い占め、貧しい小規模農園や一般市民へは水が行き渡らなくなっているところもある。

このように、市民の生活に影響が出ているにも関わらず、アボカドの生産が進められている背景から「悪魔の果実」とも呼ばれるようになった。

そこで、私たちが消費者としてできることは何だろう。

SDGsの十二番目の「つくる責任・つかう責任」には生産者も消費者も共に持続可能な世界を目指そうという意味がある。「持続可能なアボカド」もあるそうだが、なかなか手に入れるのは難しいようだ。

私の家ではおいしい・体に良いという理由で食べるが多かったが、このような現状を知り、あまり消費しない方がよいのではないかと思う一方で、それで生活している生産者のことを考えると正直、何が正解なのか今は分からない。

このアボカドのような問題が他の食物でも発生しているかもしれない。

私は、今回得た知識から「つかう責任」について今後考えていきたい。

参考資料 ニューズウィーク日本版